

まってきまず。

柱にしばらくたまま、かし子はいろいろなことを考えます。

「あの人は、私の母さんではないんだ。私の母さんは、遠い会津で死んだんだ。あの人は、よその人なんだ。私には関係ない人なんだ。でも、どうして、私
はあんな人といっしょにいるんだらう。父さんはどうしたんだらう。どこに
いるんだらう。」

幼いころ

かし子は、ほんとうの母と遊んだ幼いわか日のことを思い出します。それはつい
先日のこととも思えるし、遠い昔のこととも思えるのです。

家のそばに、お寺がありました。かし子は、母に連れられてよく遊びに行き